

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年2月3日

【評価実施概要】

事業所番号	2874500370		
法人名	社会福祉法人 香美町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム「かがやき」		
所在地	(〒669-6401) 兵庫県美方郡香美町香住区無南垣96番地		
	電話	0796-38-1500	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成20年11月23日	評価確定日	平成21年2月3日

【情報提供票より】 [平成20年11月1日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1ユニット (利用定員…計9人)		
職員数	9人	(常勤8人)	(非常勤1人) / 常勤換算8.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	地上1階建て建物の 1階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0円	その他の経費(月額)	26,700円	
敷金の有・無	有り ( ) 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り ( ) 無し	(保証金有りの場合)保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	200円	昼食	300円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または、1日あたり		1,000円	

(4) 利用者の概要 (平成20年11月1日 現在)

利用者人数	計9名 … (男性4名) (女性5名)		
要介護1	4名	要介護2	1名
要介護3	2名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均82.8歳 … (最低76歳) (最高91歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立香住総合病院	下山病院	蔵野歯科医院
---------	----------	------	--------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉協議会が母体となり運営するホームで、この地域での高齢者介護の中核を担っている。広い敷地を使ってデイサービスも併設し、地域のニーズにいち早く対応した取り組みがなされている。地域の自治会も発足2年目に入り、ホームと地域住民との絆も少しずつ築かれてきた。この1年で5名が退所し(2名は要介護度が下がり、3名は入院による)、利用者が大幅に入れ替わった。今後は「ターミナル」への取組みを見据え、常勤看護師の配置が不可欠に思う。病気や認知症のお年寄りにとって、慣れ親しんだ地域の中で暮らしてゆくことの大切さを考えると、この事業所の役割はますます高まるものであり、評価訪問に訪れるたび、地域社会における介護保険制度の役割と、これを充実させることの必要性を感じさせられる。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	金銭管理規程を作成し、運用している。守秘義務については、社会福祉協議会全体での取り組みとして研修を行なうなどし、徹底している。また、「入居者の日々の記録表」を作成したことで、職員全体の意識の共有化につながった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	管理者が作成し、計画作成担当者(主任)が内容確認をした。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	この1年間、入居者の入れ替わりが多く、会議メンバーも欠席しがちで、定期的開催しにくい状況であった(地域との連携も進んできており、今後に期待したい)。入居者の個人歴を把握し、その人らしい生活を支援する体制が整いつつある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	事業所からの連絡や報告は十分出来ているが、家族の望んでいることを把握できるよう、もう少し努めてもらいたい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	閉鎖的な土地柄ではあるが、このところの地域交流の働きかけが実を結びつつあるように感じる(今後は、家族も交えた取組みを期待したい)。

◎居心地のよい共用空間づくり

㊦リビングは皆の集いの場所に…

㊦中庭ではティータイムやバーベキューを楽しむ



◎食事を楽しむことのできる支援

㊦配膳も協働で

㊦皆で作ったつるし柿



◎地域とのつきあい

幼稚園児の訪問(恒例行事となった芋堀りの様子)



◎安心と信頼に向けた関係づくりと支援

車椅子の利用者の移動を、他の利用者が支援



◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援

皆で着物を着ての初詣は、恒例の行事



◎思いや意向の把握

業務中に気付いたことは、すぐに書き留めている…

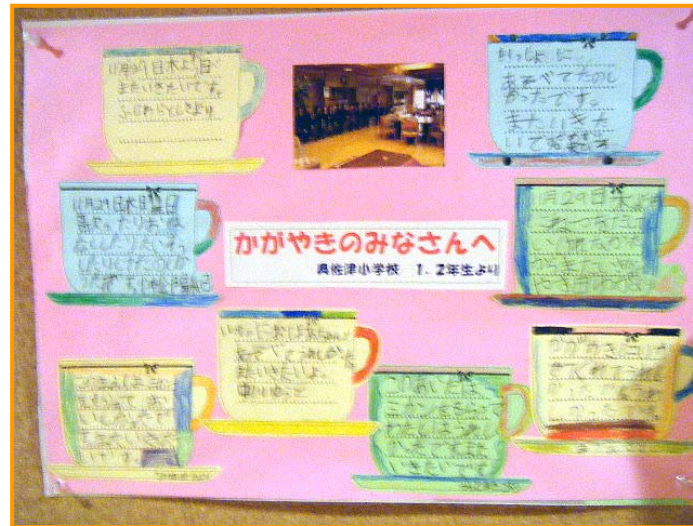




◎地域とのつきあい



近所の皆さんとお茶会



地域の小学生からのメッセージ



幼稚園児が「芋掘り」に来訪  
入居者と一緒に1日を楽しむ…



「畑の家」でお茶を楽しむ…

◎居心地のよい共用空間づくり



皆が集まる炬燵



◎社会的生活の支援  
それぞれに役割ごとをもって…



いろいろな形に組み合わせることのできるテーブル





▲中庭(日々の暮らしの温もりを感じる)



▲建物外観



▲収穫野菜による一品



▲家庭菜園

## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域で、その人らしく暮らすこと」を目標にしている。そのベースには『個人の尊厳』がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域にある他の事業所(特別養護老人ホームや授産施設など)との交流を持つことを心がけており、地域へ出かける機会作りを心がけている。介護予防では「畑の家」と連携した取組みを行っている。地域の人たちが気軽に立ち寄れるホーム作りを心がけている。理念の実践へ日々のカンファレンスを通じ、職員間で話し合う機会をもっている。	○	入居者についての日々の記録表を付けて以降、職員間の情報共有面での意識改革が見られ、コミュニケーションもスムーズになった。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	無南垣地域における「しあわせ地域づくり」事業(県から「しあわせ地域づくり」の指定を受けている)では、区長が支援してくれている。反面、まだまだ認知症ホームに関する偏見があることは事実であるが、徐々に改善されてきている。ホームには幼稚園児が毎年芋ほりに訪れ、利用者を和ませてくれている。地域からの行事の案内があれば、参加するように心がけており、関係を継続することの大切さが理解されている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の第三者評価終了後、主任やリーダーが自主的に改善に取り組んでいる。徐々にではあるが、職員間でも意識できるようになった。特に、新人職員へのフォローが出来る体制が整ってきていることが良い結果を引き出している。	○	職員の異動や、入居者の入れ替わりなどの際には、日々の記録表を活用して、入居者との関係作りについて柔軟な対応をお願いする。



外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーの欠席により会議が開催できないケースもある。	○	「委員のメンバー変更も視野に入れながら地域との係わりを重視していく予定」とのこと、管理者によるネットワーク構築も含め、期待したい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議を中心に、地域包括支援センターを含めた連携ができています。	○	今後は、家族との協力体制を強化したうえで、グループホームでの現状を行政にアピールして欲しい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	預かり金の報告や、「かがやき」便りのほか、電話でのフォローが行われている。衣類の入替時期には家族に声を掛けるようにしている。アンケート結果からも家族との関係づくりに積極的に取り組んでいることが分かる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」による意見抽出には限界を感じており、方法を検討しているところ。そのためにも、普段からの家族との関わりを強く意識している。	○	家族会など、家族が集まる機会を活用し、「事前にテーマを決めた意見交換会」などを行なってみたいかどうか。家族や本人から直接意見が出にくい場合は、第三者を介したアンケート調査も有効な手段である。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事的な面もあり、現場の努力だけでは解決の難しい問題もある。	○	現場での取組みを上層部へ伝えることも管理者の役割である。法人(事業主体)の役職者が家族会に出席するなど、課題について現場と経営者が共通認識をもつことが大切である。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	案内を受けた研修や勉強会への参加を促している。職員の自主的な学びの希望も受け入れて勤務シフトを組んで自己啓発を推進している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「地域ケア一会」以外の取り組みとしても、美方地区のグループホームの情報交換会が3カ月に1回の割合で行われており、各事業所との交流を深めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスやナイトケアの体験も馴染みの関係を作るきっかけになっている。地域柄、昔からの知り合いや仕事仲間と一緒に入所しているケースも多い。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員主導ではなく、利用者の自主的な行動により生活のリズムを作るよう努力している。共同生活において、何事も『お互いさま』と思える雰囲気作りが出来るよう心掛けており、利用者同士が助け合って生活している様子がみられた。	○	職員の技術レベルの差が大きく、利用者との関係作りにおいても今後の課題である。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「入所者の日々の記録表」や「ケース記録」から多くの情報が得られており、それを基にカンファレンスに反映させ、アセスメントの段階で不足している部分を補っている。気がついたことや必要な記録がすぐに書き込めるように工夫している。記録のとり方からも、職員の知識や技能の力量が把握でき、これをその職員への「教育研修」に活かすこともできている。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画書は、家族や当事者の意見に重きを置いて作成し、面会者や関係者の意見や情報も取り入れている。	○	アセスメントの領域を広げた取り組みがなされており、今後に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	情報の共有により計画の見直しもスムーズに行えている。見直しは、定期的のだけでなく、状況に照らして臨機応変に行なっている。家族の面会時の聴き取りや職員によるミニカンファレンスを活用して計画書を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	町の単独事業として取り組んできているナイトケアでは、2泊3日の体験で、同時に2人まで受入れが可能である。他の事業所との交流も増え、地域の拠点として色々な社会資源を活用できる事業所になってきている。	○	馴染みの関係作りでも、デイサービスやナイトケアを通じ、より身近な事業所として発展してきており、今後の活動が大いに期待される。




外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域における委託医との関係が良好で、他病院への紹介や連携など、スムーズな対応がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では難しいが、看護師が常勤しておれば対応が可能な段階にはなっている。今後は、家族との話し合いを含め、早めの方針決定に向け、事を進めてゆく予定である。	○	数年後を見越し、意欲的に取り組んでいるので、職員の研修や家族との意見交換などをしながら、今後に期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーへの取組みに対し、職員全体で意見を交換している。採用時に誓約書を取り、意識付けをしている。	○	「個人情報の保護」と「プライバシーの保護」の違いも認識しながら、これを徹底させていてもらいたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物の支援や入浴、理美容への対応など、利用所個人の生活ペースを重視しており、「その人らしい生活」を送ってもらう努力をしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	男女に関係なく、片付けや茶碗運びなど、各自が出来ることを中心に支援している。つるし柿や魚の干物を作ったり…カニの身を出したり…も、協働でおこなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は「一日おきに」を基本にしているが、「毎日」を希望される利用者にはそのように対応している。時間帯は午後～夕方を中心である。ADLが高い人は、「見守り」により対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出の機会を積極的に設けており、着物を着ての初詣は毎年の恒例行事である。地域のイベントにも参加し、掃除や草刈り、畑仕事など、身体を動かすことを行っている。	○	「各人の生活歴を生かしてゆけるよう、日々の記録表などを活用する予定。」とのこと、ぜひ進めていってほしい。
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など、個人の希望に沿って「やりたいこと」を中心に、一日中活動できるよう支援をしている。スーパーマーケットにも買い物に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	「鍵を掛けることも、『拘束』になる。」との考えから、夜間の防犯の時間帯以外は施錠していない(遅番が帰る午後9時30分以降は施錠している)。		



外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	香美町独自の防災マニュアルがあり、訓練時に役割や内容の確認を行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の補給には、かなり気を配っている。ペットボトルを用い飲んだ量を一目で分かるようにしたり、食事のメニューでも水分補給が出来るよう工夫している。栄養バランスで困ったときなどは、栄養士にアドバイスをもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる花を選んで、それとなく飾っている。中庭を活用してバーベキューをするなど、楽しい雰囲気作りがされている。リビングに皆が集まり、和やかに談笑をしている光景は微笑ましい。今後は、アンケート調査の内容を活かした取組みも行う予定。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各人の好みで、自由に部屋がレイアウトしている。壁に小さな飾りつけの出来るスペースがあったり、なじみの家具を持ち込んだりしている。入居して日が浅い人については、家具なども揃っていないので、家族の協力を仰いでいる。		

※  は、重点項目。